

国際消防救助隊連携訓練の開催

参事官

国際消防救助隊（IRT）は、「国際緊急援助隊の派遣に関する法律」に基づく国際緊急援助隊（JDR）・救助チームの一員として海外の大規模災害に対し派遣され、我が国の消防が培ってきた高度な救助技術と能力を発揮し、我が国の国際緊急援助に貢献しています。その派遣回数は、昭和61年の発足以来、22回を数え、直近では、令和5年2月にトルコ共和国南東部へ、大規模な地震による被害への支援のため派遣されています。

消防庁では、あらかじめ77消防本部599名の隊員を国際消防救助隊員として登録し、被災地で円滑に救助活動を実施するための準備体制を構築しています。

そして、海外の被災地において、国際的なガイドラインに準拠した適切かつ安全な捜索・救助活動を実施するため、平成24年度から「国際消防救助隊連携訓練」を開催し、国際消防救助隊の更なる活動能力の充実を図っています。

今年度は、新潟市消防局及び京都市消防局の協力の下、連携訓練を開催しました。

<新潟市消防局>

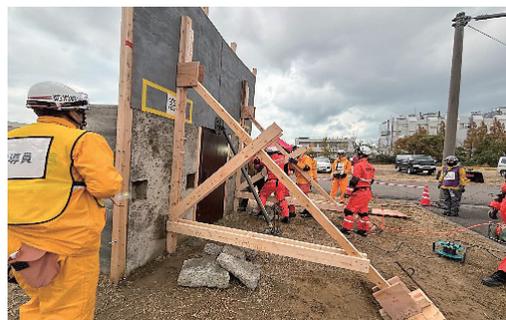
- ・実施日 令和7年11月19日（水）～21日（金）
- ・場 所 新潟県消防学校
- ・参加隊員 38登録消防本部 40名
- ・訓練指導員 22名

IRT指導員

- JDR・救助チーム技術検討員
- JDR・救助チームハンドラー登録者（救助犬含む）
- JDR・救助チーム医療班登録者
- JDR・救助チーム構造評価専門家登録者

新潟県消防学校で実施した連携訓練では、38登録消防本部から40名の登録隊員が参加し、ブリーチング（鉄筋コンクリート等の破壊技術）、ショアリング（倒壊建物等における木材を活用した安定化技術）及びロープレスキュー（倒壊建物等におけるロープを活用した救助技術）の基本訓練に加え、複合型想定訓練を実施しました。

複合型想定訓練では、活動時間が6時間と設定された中、様々な手技を実施するだけでなく、ハンドラーと連携した救助犬サーチ、構造評価と連携した進入口の状況評価及びショアリング判断、医療班のアドバイスによる救命士の要救助者対応まで、他機能（医療班、構造評価及びハンドラー）と密に連携した訓練を実施しました。



ショアリング



ロープレスキュー



複合型想定訓練

<京都市消防局>

- ・実施日 令和8年1月28日(水)～30日(金)
- ・場所 京都市消防活動総合センター
- ・参加隊員 39登録消防本部 44名
- ・訓練指導員 21名

RT指導員

- JDR・救助チーム技術検討員
- JDR・救助チーム医療班登録者
- JDR・救助チーム構造評価専門家登録者
- 日本レスキュー協会(救助犬含む)

京都市消防活動総合センターで実施した連携訓練では、39登録本部から44名の登録隊員が参加し、ASR 2(救助を必要としている方がいる可能性がある現場を特定するための活動)、資機材取扱訓練、ブリーチング(鉄筋コンクリート等の破壊技術)及びショアリング(倒壊建物等における木材を活用した安定化技術)の基本訓練に加え、複合型想定訓練を実施しました。

ASR 2では、通訳を介し情報提供者からの情報収集を行うとともに、写真現示だけでなく、実物の建物や訓練場を活用した訓練を実施しました。

複合型想定訓練では、山岳壁からの隊員及び資機材の投入、高所での下方ブリーチング(鉄筋コンクリート等の破壊技術)、狭隘閉鎖空間での救急・医療処置の訓練を余震リスクや身体的制約がある中で、他機能(医療班、構造評価及びハンドラー)と密に連携した訓練を実施することで、隊員間や他機能との連携を密にすることの重要性をより認識する機会となりました。

両会場とも2日半という短い訓練期間ではあったものの、実派遣さながらの過酷な条件下での訓練を行いました。訓練参加隊員は高い集中力を継続し、訓練に取り組みました。

消防庁では、今後の派遣要請に備えるため、引き続き、国際消防救助隊員を対象として、国際基準に沿った救助技術や知識等を取得するための連携訓練等を実施し、各隊員が海外の被災地において効果的な救助活動を行えるよう能力強化を行ってまいります。

最後に、本訓練の開催に先立ち、長期間における調整等、多大なるご尽力をいただいた新潟市消防局及び京都市消防局に対しまして、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



梁破壊



複合型想定訓練



複合型想定訓練



新潟会場



京都会場

問合せ先

消防庁国民保護・防災部 参事官付 豊田、佐山
TEL: 03-5253-7507